

### 3千人に迫る！救急情報共有で搬送円滑化へ

つなぐ

**もしもの時のために「救急かけはし」に登録**

思いがけない急病のために | 突然の事故のために | 頻発している災害のために

**シズケア\*かけはしの機能**

情報共有システム：医療・介護サービス利用者や地域生活に見守りが必要な方に関する情報を、多職種・多機能のチームで共有するためのシステム。情報共有システムの中で、救急搬送の時の情報に特化していたシステムが「救急かけはし」である。

**問** シズケア\*かけはしの登録者数を伺う。登録者数2,981人。(令和7年3月末現在)

**答** 救急かけはしの活用内容を伺う。

**問** 救急かけはしは、事前に登録された救急情報を救急搬送の際に共有し、円滑な搬送に繋げる仕組みである。令和6年度は救急搬送された登録者88人に対し、医療機関による情報照会が7回実施された実績がある。

**問** 救急かけはしの登録者が増え、富士宮の安全に繋がる。来年の目標登録者数は設定しているのか。

**答** 目標登録者数や、具体的な展開方針については、検討を進めている。

### 経常収支比率 93.8%は財政に余裕がない事

無会派

**問** 令和6年度の富士宮市の人件費は95億円で、その結果、経常収支比率は93.8%と近年で最も高くなっています。全国平均よりも残業代が多く、職員の健康や心の疲れも心配されます。市の行政経営プランでは職員数の基準を1,097人としていますが、令和6年度は1,121人と24人多い状況です。

**答** 「職員の健康を守りながら残業を減らし、人件費を抑えて市民サービスを維持するにはどうするのか」

「基準の人数に戻す考えはあるのか」

※経常収支比率とは、「毎年必ず支出しなければならぬお金」の割合です。家庭にたとえると、給料の約94%を税金や食費で使い切ってしまう、余裕がない状態です。市の財政においては、ゆとりがなく、将来のまちづくりや新しい事業にお金を回しにくくなっています。

**問** 基準値を維持していきたいとは思いますが、昨今の自治体を取り巻く現状は、少子高齢化や国からの事務事業などがあり、職員の削減にはなかなか追いついていない。今後、この1,097人を意識して最小の人数で最大の結果を示せるようにヒヤリングを重ね努力していきます。

